

Office of

Institutional

Research

KUIS

神田外語大学

IR 年次報告書 2020

2020 Bulletin version Annual Report of
the Office of Institutional Research

はじめに

神田外語大学 学長室 寺澤岳生です。本学は、学生の学修成果を把握し、エビデンスに基づく PDCA サイクルを強化するために、教育アセスメントとして 2016 年度から大学 IR コンソーシアム加盟校共通の「学生アンケート」を毎年行っています。2020 年度は、「学部在学生アンケート調査」、「卒業時アンケート調査」、「卒業生アンケート調査（既卒生対象）」を実施いたしました。本報告書では、これらアンケートの分析結果（抜粋）とともに、MJIR（大学情報・機関調査研究会）での発表論文の要旨をご紹介します。

P2

学生アンケート集計結果
— 2017・2018・2019・2020 —（抜粋）

卒業時アンケート 2020
集計結果（抜粋）

P9

P11

卒業生アンケート 2020
集計結果（抜粋）

大学情報・機関調査研究会
(MJIR) 発表要旨

P17

P24

学長室 IR 推進チーム
主な活動記録
(2020 年度)

IR (Institutional Research) とは「客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること」(山形大学次世代形成・評価開発機構 IR 部門 Web サイトより) です。大学のなかで行われている様々な活動を客観的データに基づいて分析し、データと分析結果を共有することで大学の PDCA サイクルを強化し、業務の改善につなげていく活動です。

学生アンケート集計結果 —2017・2018・2019・2020—（抜粋）





●本学における共通学生アンケート実施状況



対 象：学部在学生

調 査 方 法：調査方法：グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間：約 18～20 分

内 容：IR コンソーシアム共通の項目に、インターンシップや留学関係など、本学独自項目を追加
（授業経験、学習態度、週当たりの学習時間、入学後の能力変化、英語運用能力、大学生活への適応、大学教育・施設への満足度等を調べる間接アセスメント調査）

実施年度	2020 年度		2019 年度	
実施期間	9/11～11/4		9/12～11/1	
対象者数	4,160		4,170	
回答数	1,357		1,260	
回答率	32.6%		30.2%	
集計結果 URL	1 年生結果 https://bit.ly/36kdAqi 上級生(2～4 年生)結果 https://bit.ly/3n9EBUa		1 年生結果 http://bit.ly/2ShUZnG 上級生(2～4 年生)結果 http://bit.ly/2H1yAG1	
集計結果 QRコード	1 年生結果 	上級生(2～4 年生)結果 	1 年生結果 	上級生(2～4 年生)結果 

実施年度	2018 年度		2017 年度	
実施期間	9/13～10/31		9/13～10/31	
対象者数	4,008		3,949	
回答数	863		1,260	
回答率	21.5%		31.9%	
集計結果 URL	http://bit.ly/2H8VcVP		https://goo.gl/CWgthr	
集計結果 QRコード				

●大学 IR コンソーシアムについて

大学 IR コンソーシアム（以下、「コンソーシアム」）は、平成 21 年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的・大学連携支援プログラム」(GP) に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」を基盤として、同プログラムの代表校である同志社大学、連携校の北海道大学、大阪府立大学、甲南大学が中心となって、2011 年度にコンソーシアム設置準備委員会を組織し、2012 年 9 月 25 日に正式に発足した組織です。現在では、全国の国公立 60 大学が加盟しています。

コンソーシアムでは、教学評価体制の基幹をなす IR ネットワークシステムの運営を行い、情報の一元管理、個別の大学での教育効果の測定および学生調査による連携大学間での「相互評価」の機能や機会を会員校に提供しています。

●共通学生アンケート調査について

共通学生アンケートは、大学 IR コンソーシアムが「学生調査」として設計したもので、授業経験や学習行動、知識・能力の獲得状況、英語運用能力のレベル、大学教育に対する満足度といった学生の認知的・情緒的側面を重視した調査項目で構成されています。大学 IR コンソーシアム会員校が共通のアンケートを継続して実施することで、学生調査の結果を大学 IR コンソーシアム会員校全体と比較でき、各大学の特徴（強み、弱み）を見出すことができます。

なお、本学では共通学生アンケートに独自項目を追加し、Web による回答で実施しています。

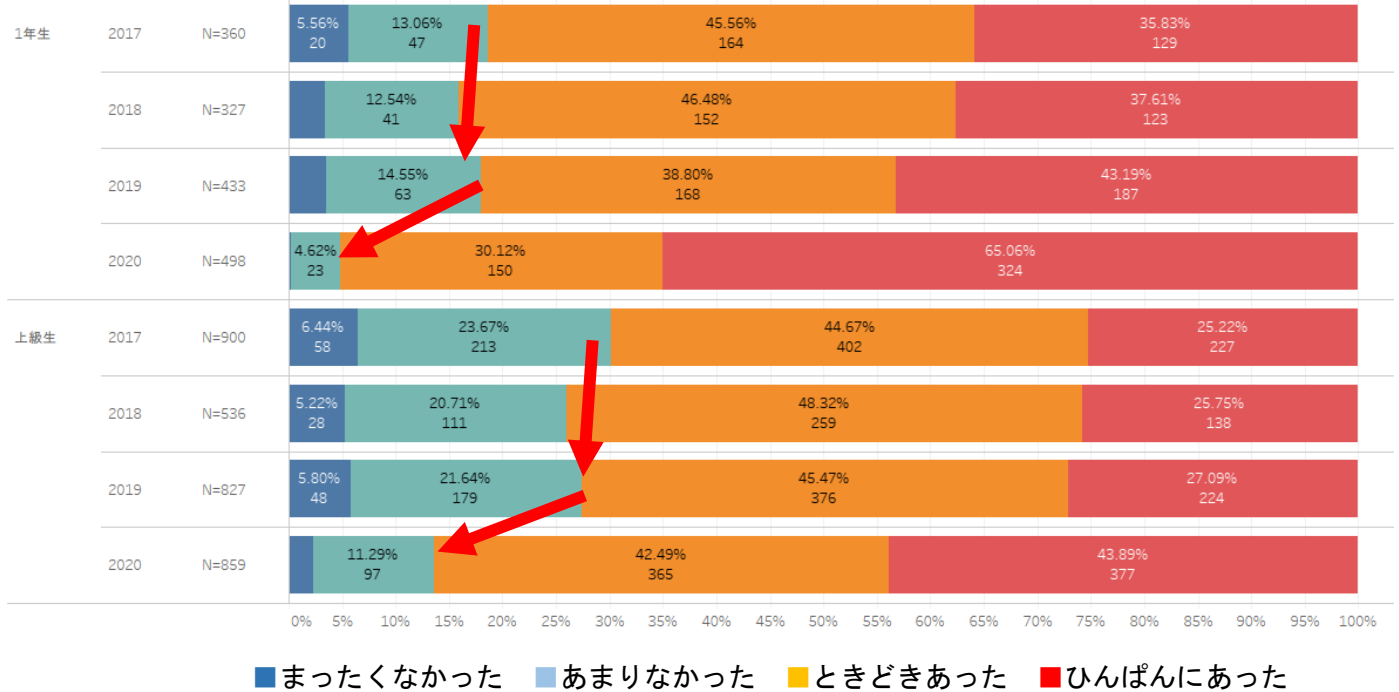
↑ステッカーを貼って回答を促進しました。

←学内ポータルにポスターを掲出してアンケート実施を周知しました。

● 共通学生アンケートの集計結果 — 2017・2018・2019・2020 — (抜粋)

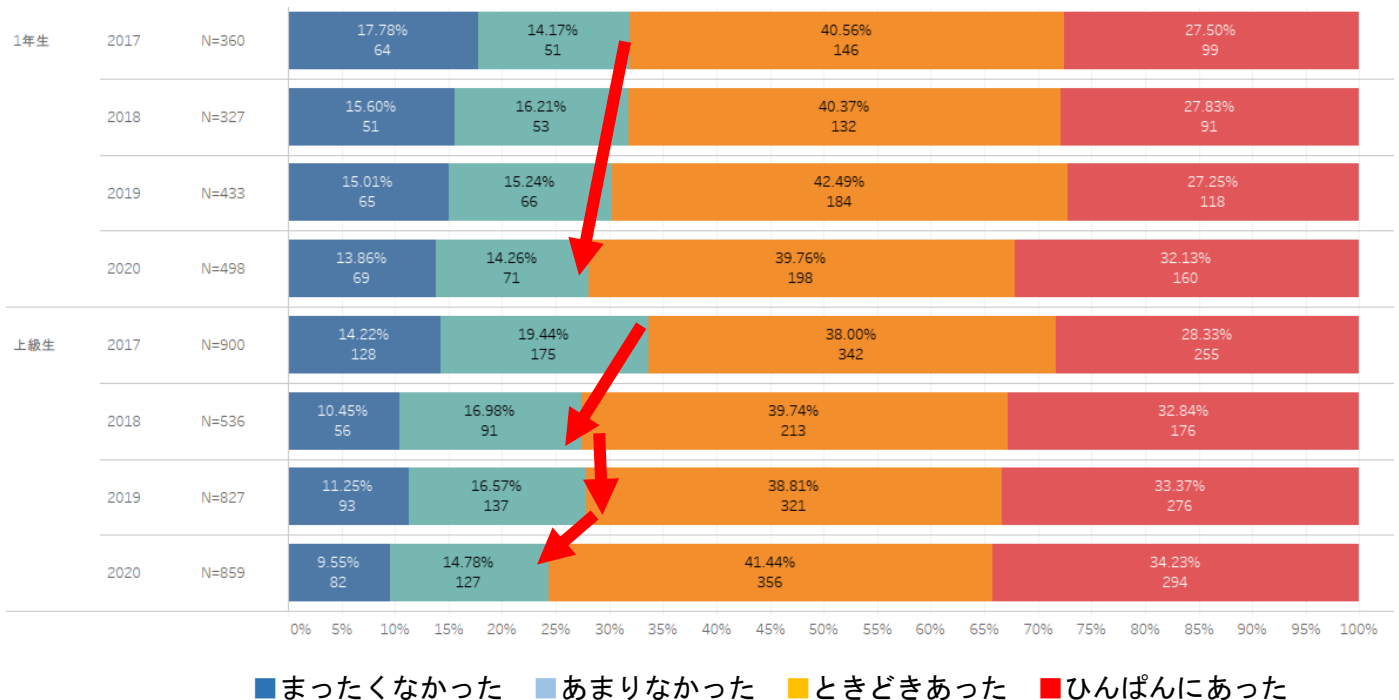
授業経験：教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

⇒2017年から2019年は同じ傾向。2019年から2020年にかけては増加傾向。



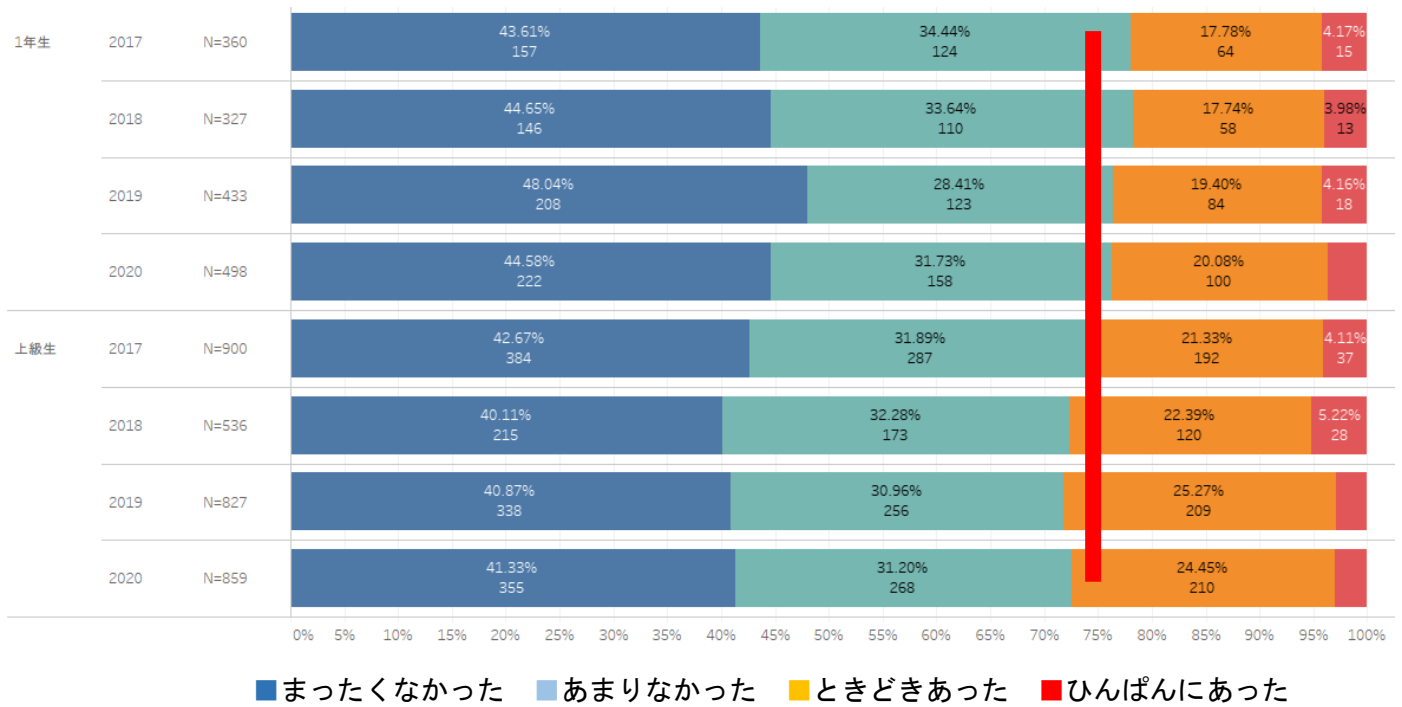
授業経験：取りたい授業を履修登録できなかった

⇒1年生は2017年から2020年にかけてはゆるやかな増加傾向。上級生(2~4年生)は2017年から2018年は急な増加傾向。2018年から2019年は微減。2019年から2020年は再び増加傾向。



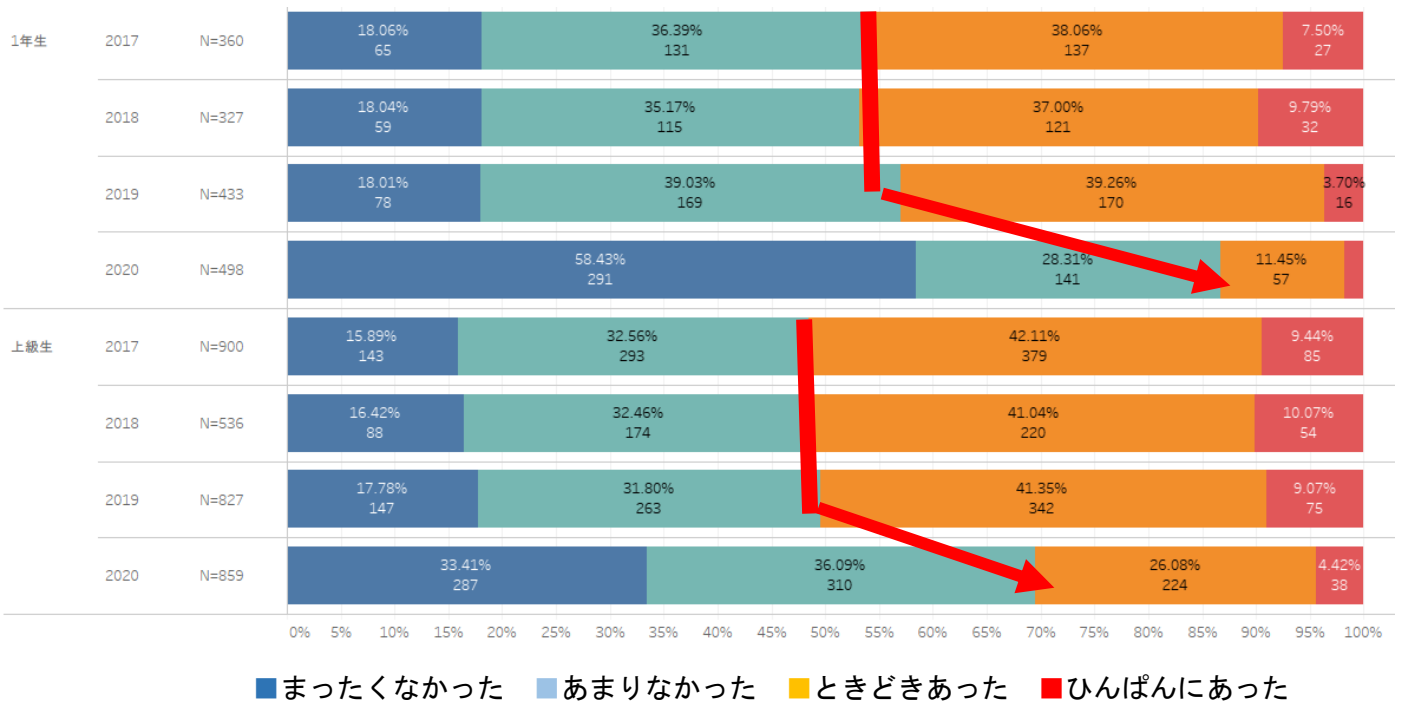
学習態度：提出期限までに授業課題を完成できなかった

⇒レファレンスラインの75%前後の学生が、例年通り提出期限までに課題を出せていた。



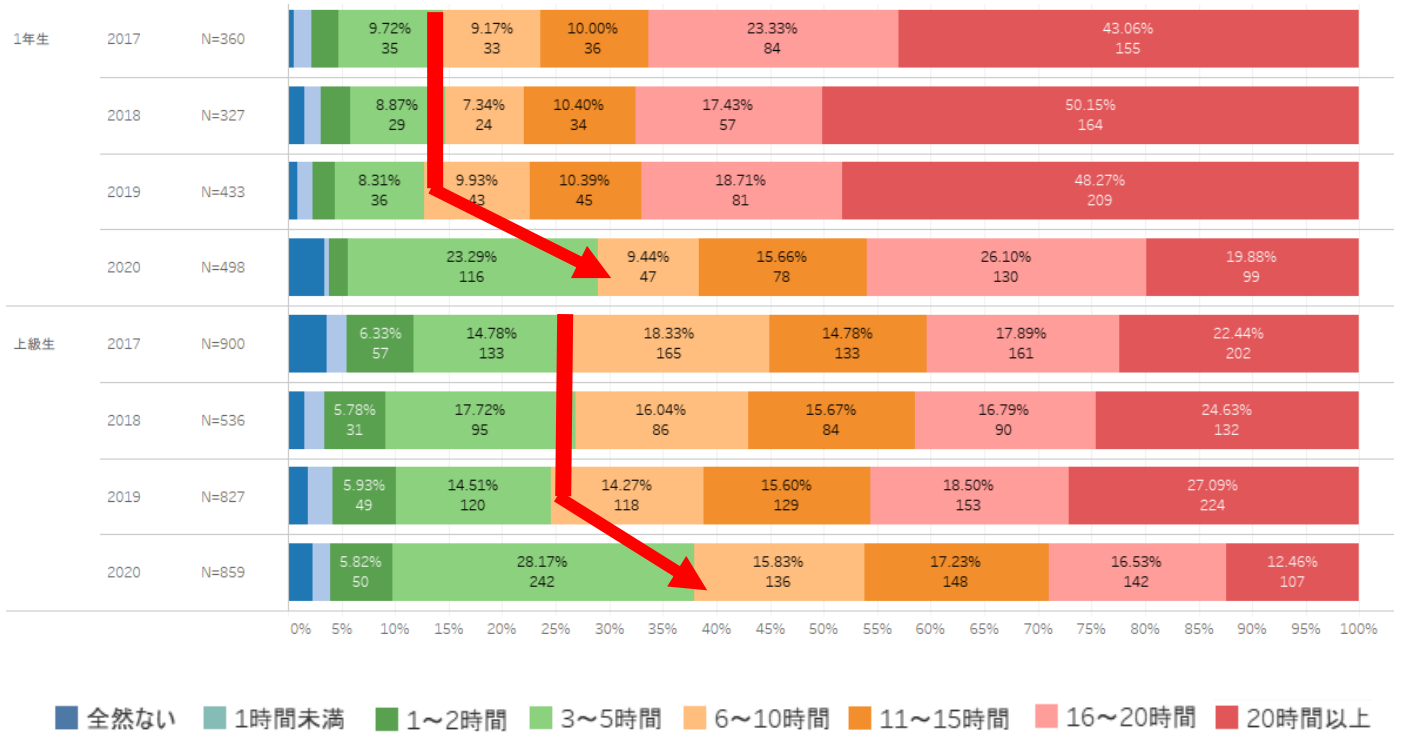
学習態度：授業中に居眠りをした

⇒1年生、上級生共に、2017年～2019年までは同じ傾向。2019年から2020年は授業中に居眠りをする学生が20～30%減少した。



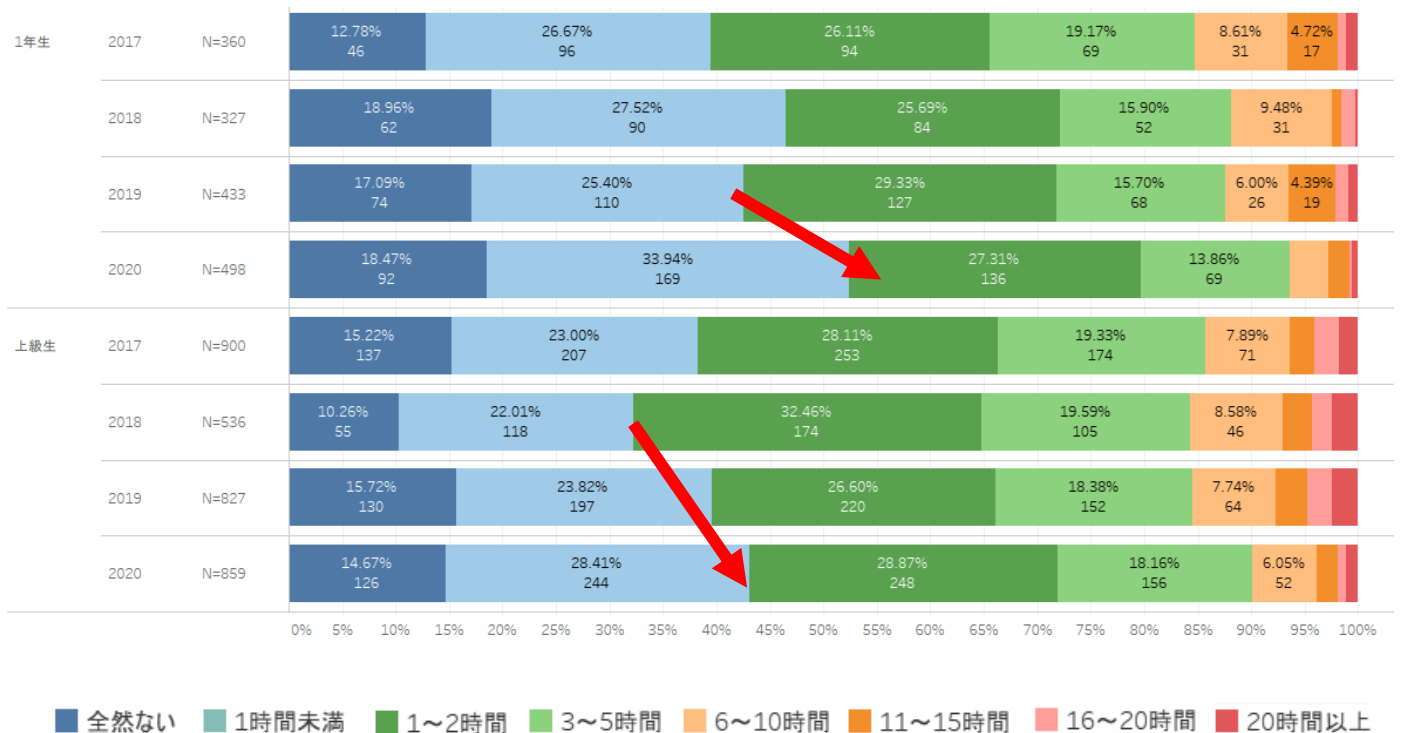
週あたりの活動時間：授業や実験に出る

⇒1年生、上級生共に、2019年から2020年は、授業に出ている時間が減少傾向。



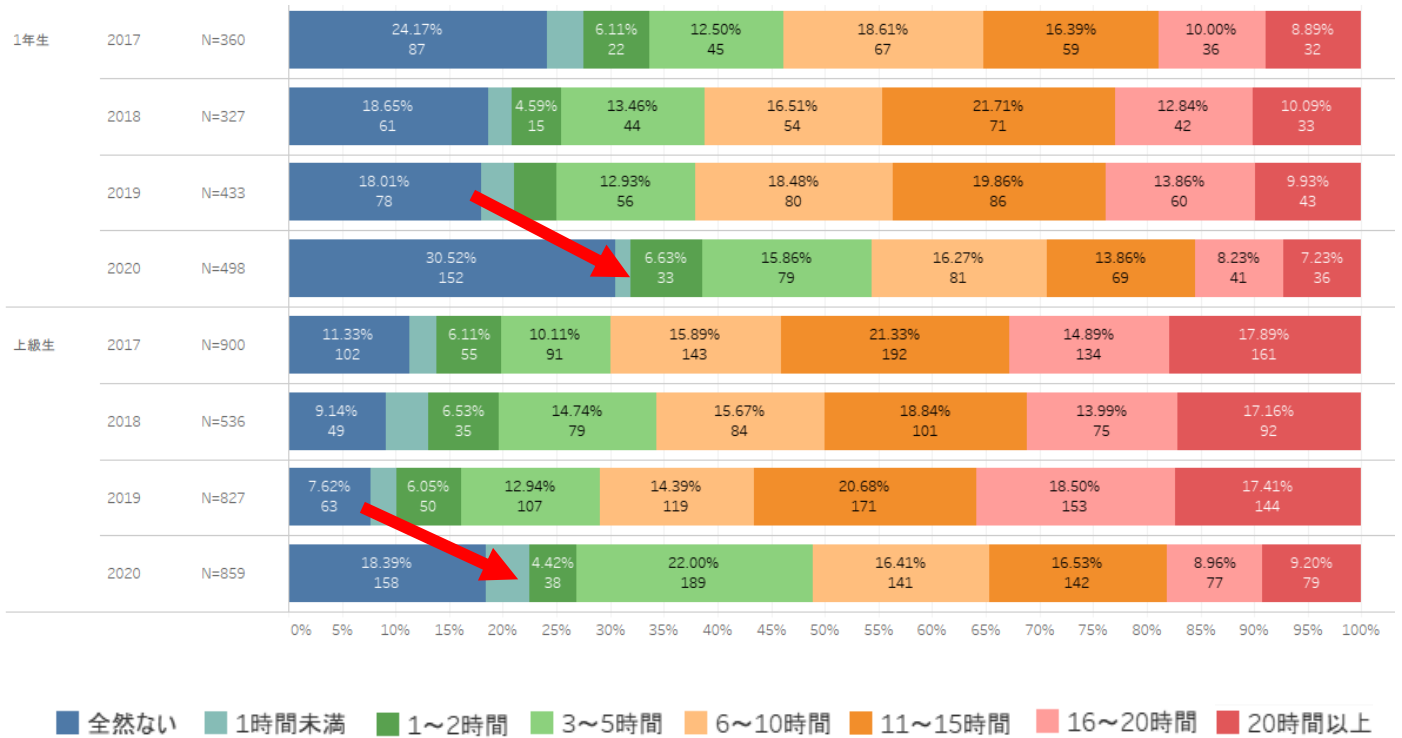
週あたりの活動時間：授業時間外に、授業に関連しない勉強をする

⇒授業に関連しない勉強をする時間は減少傾向。



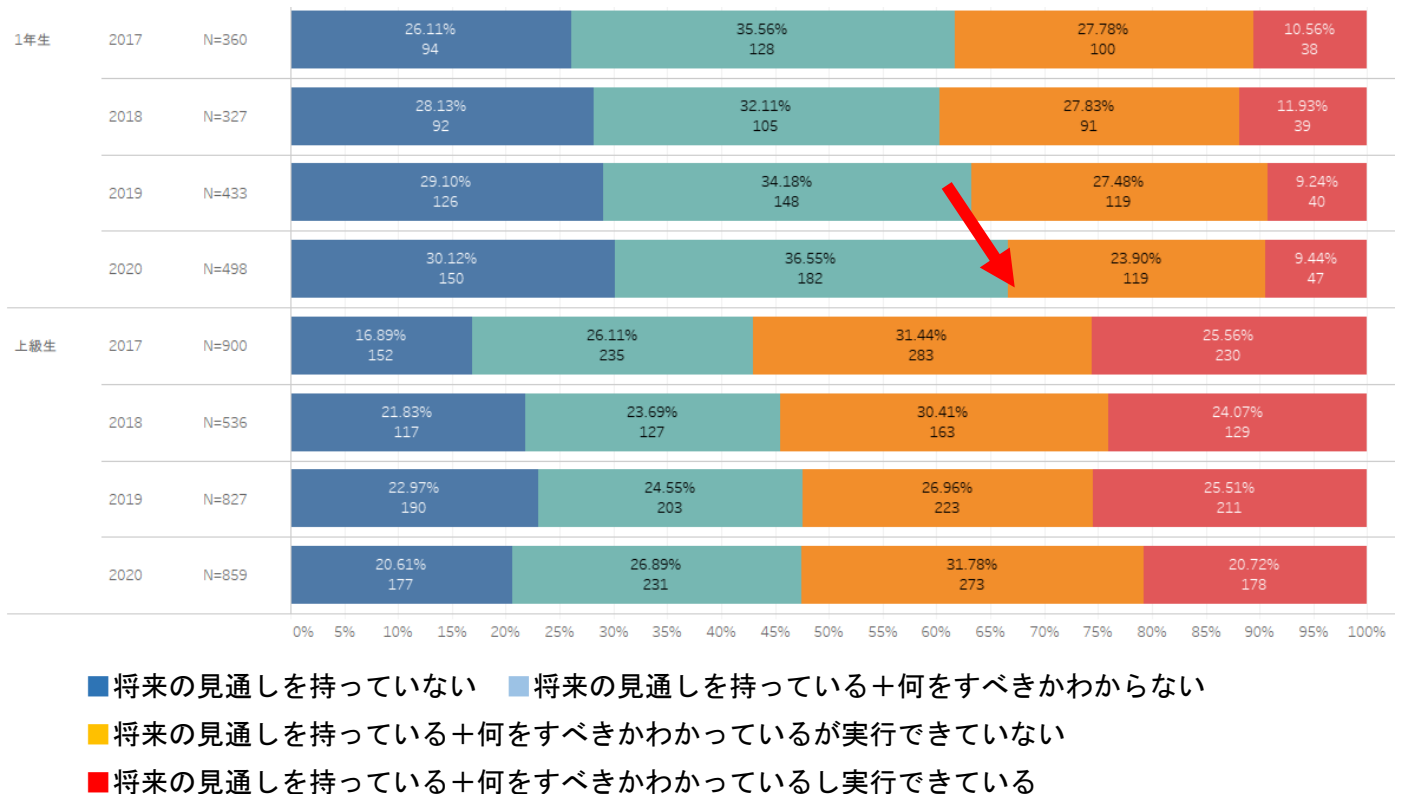
週あたりの活動時間：大学外でアルバイトや仕事をする

⇒1年生、上級生共に、2019年から2020年はアルバイトをする時間が減少。



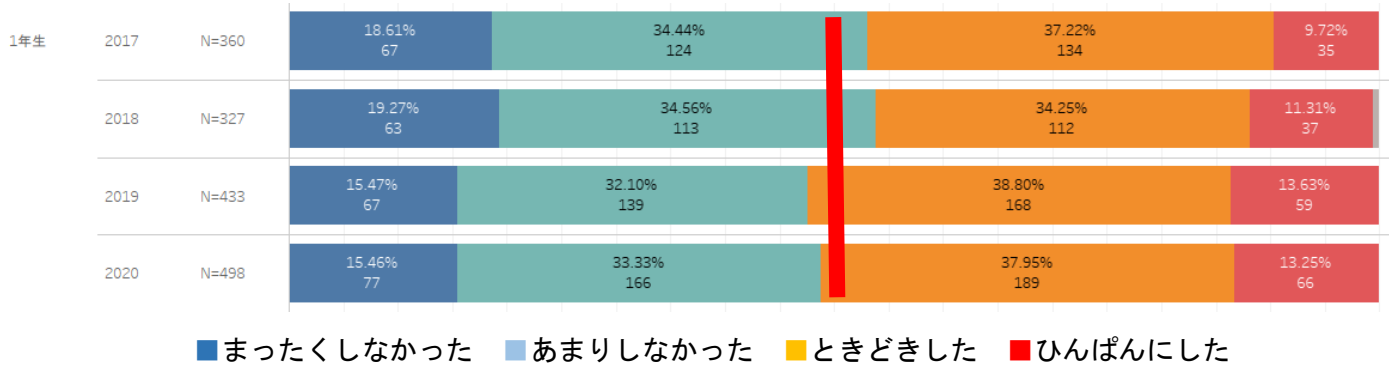
将来の見通し

⇒1年生では、2019年から2020年にかけて「将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない」と回答した学生がやや増加。



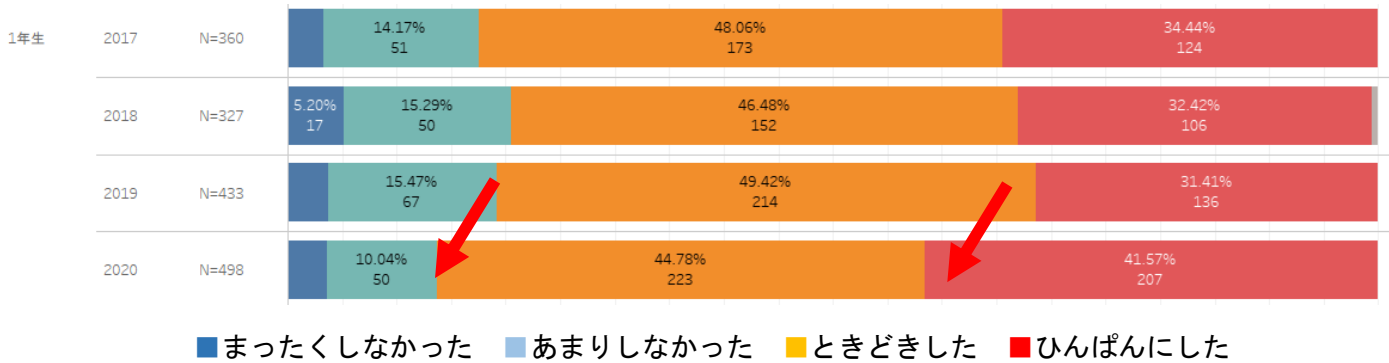
高校3年次の学習経験：授業中に質問をした

⇒高校3年次に、半数以上が授業中に質問している。



高校3年次の学習経験：自分の失敗から学んだ

⇒高校3年次の学習経験において、2019年から2020年にかけて、自分の失敗から学んだと回答した学生が増加した。



卒業時アンケート2020集計結果（抜粋）

期 間：2021年3月16日（火）～2021年3月31日（水）

対 象：学部卒業時学生

有効回答数：289件

調査方法：Googleフォームを利用したWeb アンケート

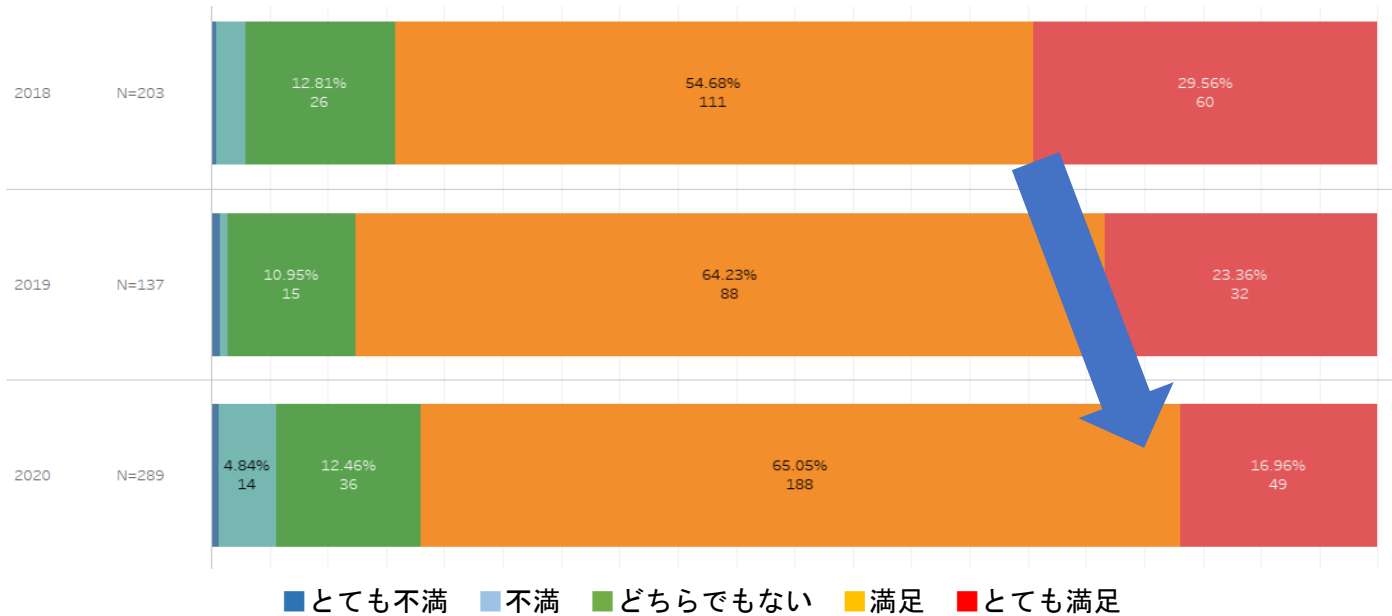
回答所要時間：約5分

調査項目：本学独自項目（各部署からの項目も含む）

授業・学生生活・学内施設に関する満足度

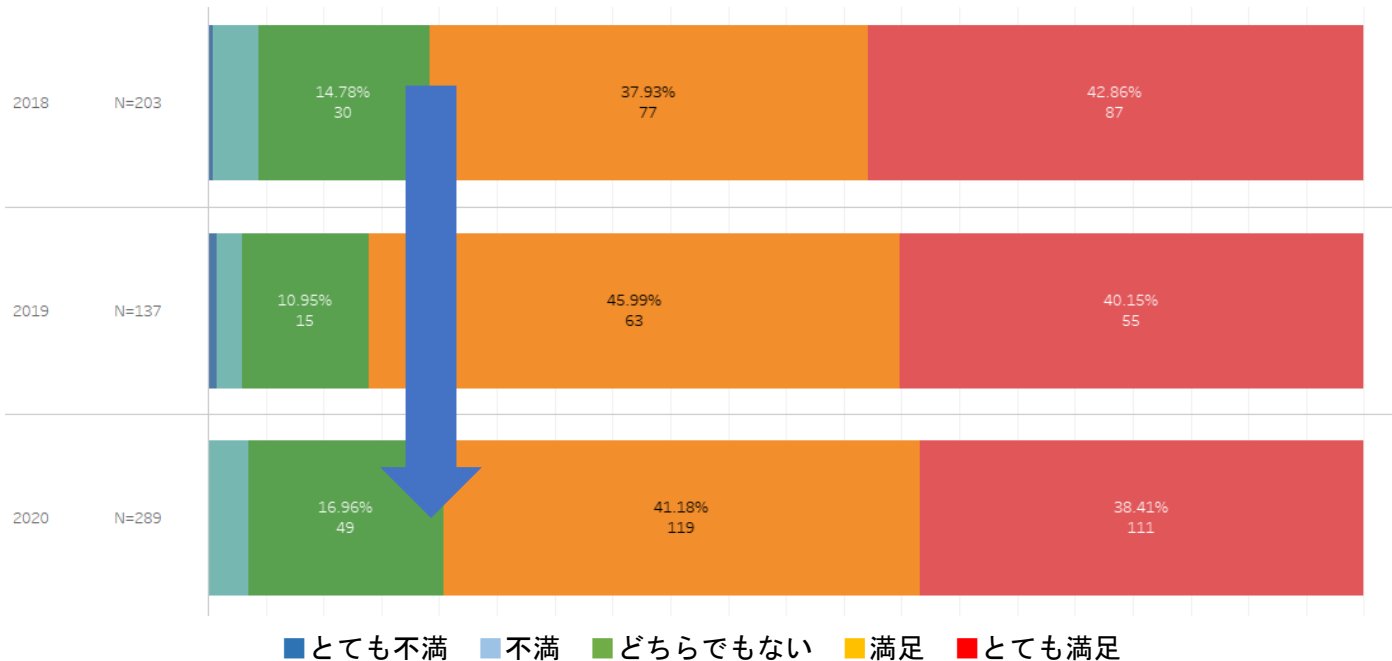
授業に関する満足度

⇒とても満足＋満足は80%前後。しかし、とても満足な層は減少傾向にある。



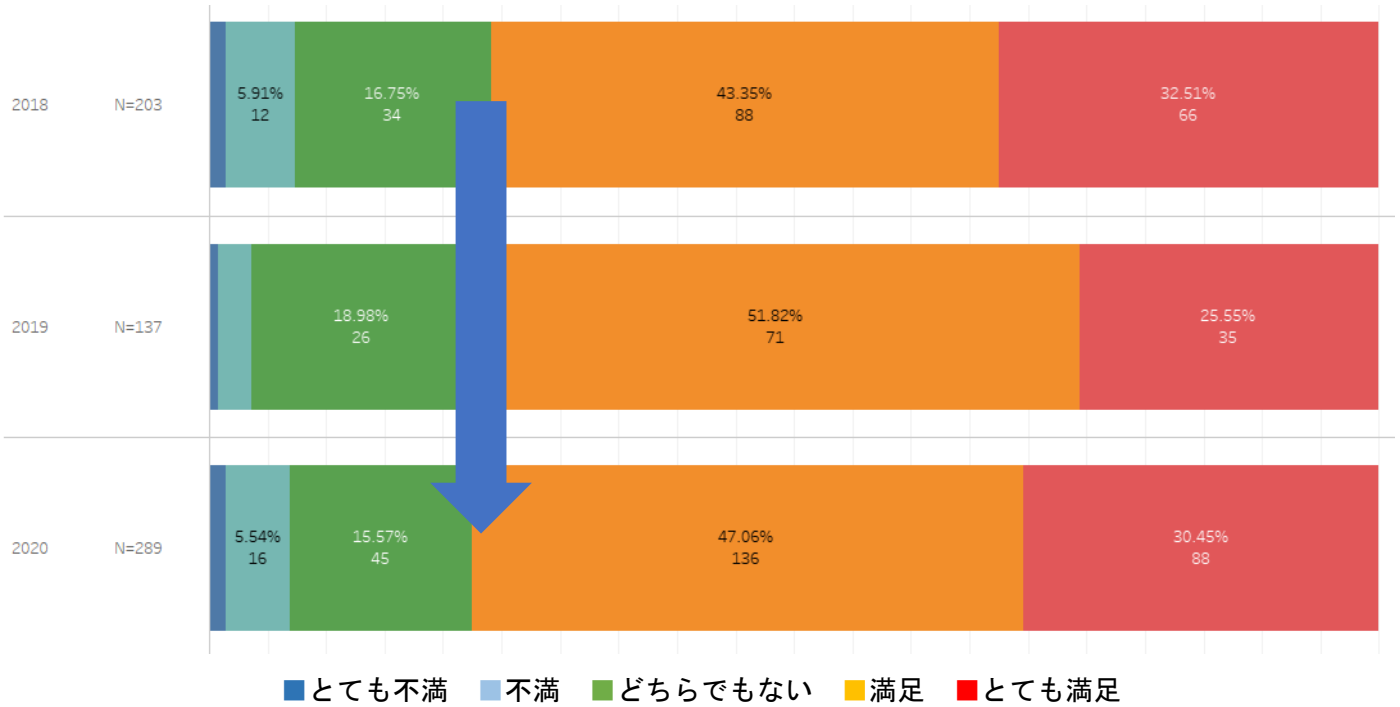
学生生活に関する満足度

⇒とても満足＋満足は80%前後。ここ数年は、維持できており、学生生活の満足度は横ばい。



学内施設の満足度

⇒とても満足＋満足は80%前後。ここ数年は、維持できており、学生生活の満足度は横ばい。



知り合いへの推奨度



卒業生アンケート2020集計結果（抜粋）

期 間：2020年12月2日（水）～2021年2月24日（水）

対 象：卒業生

有効回答数：207件（回答数209件）

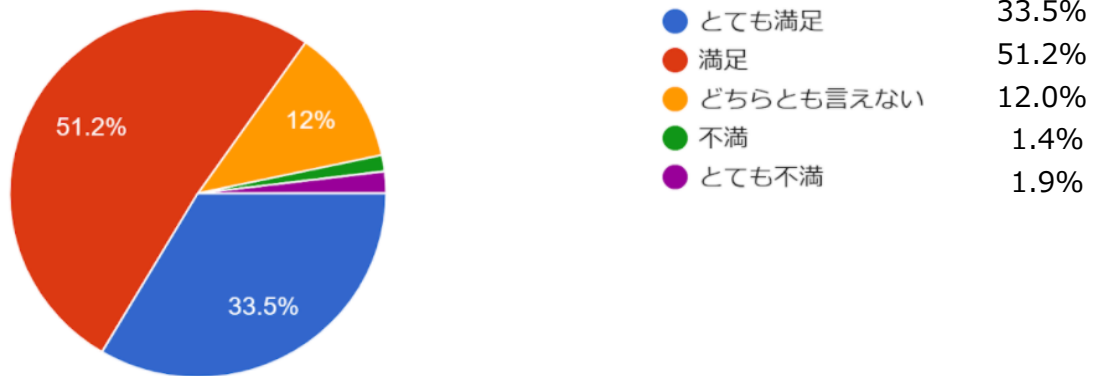
調査方法：Googleフォームを利用したWeb アンケート

回答所要時間：約5分

調査項目：IR コンソーシアム共通、満足度（教育・研究／学生生活）、大学卒業後の仕事について、社会で求められる能力等

本学の教育・研究に満足していましたか。

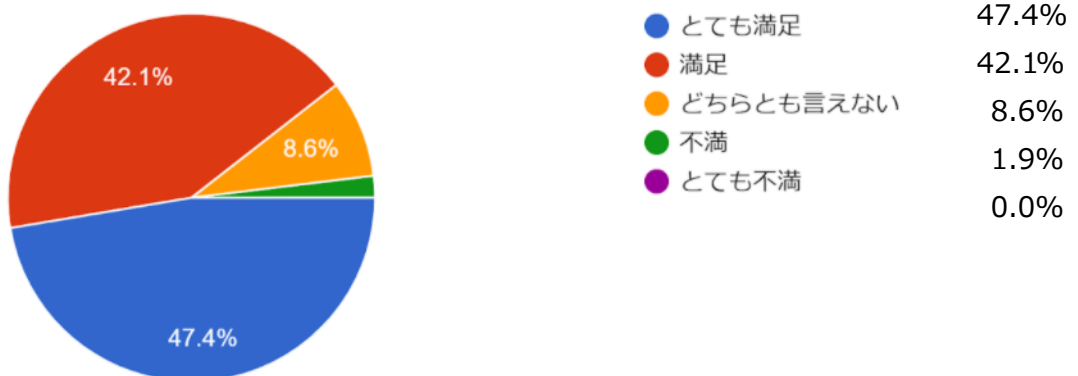
209 件の回答



→約 8 割が満足（とても満足 + 満足）

大学時代の生活全般に満足していましたか。

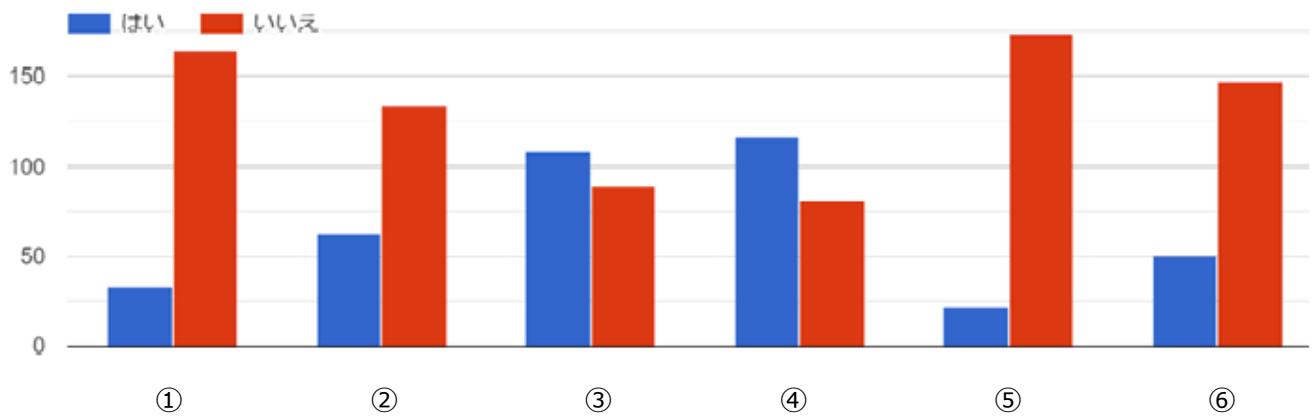
209 件の回答



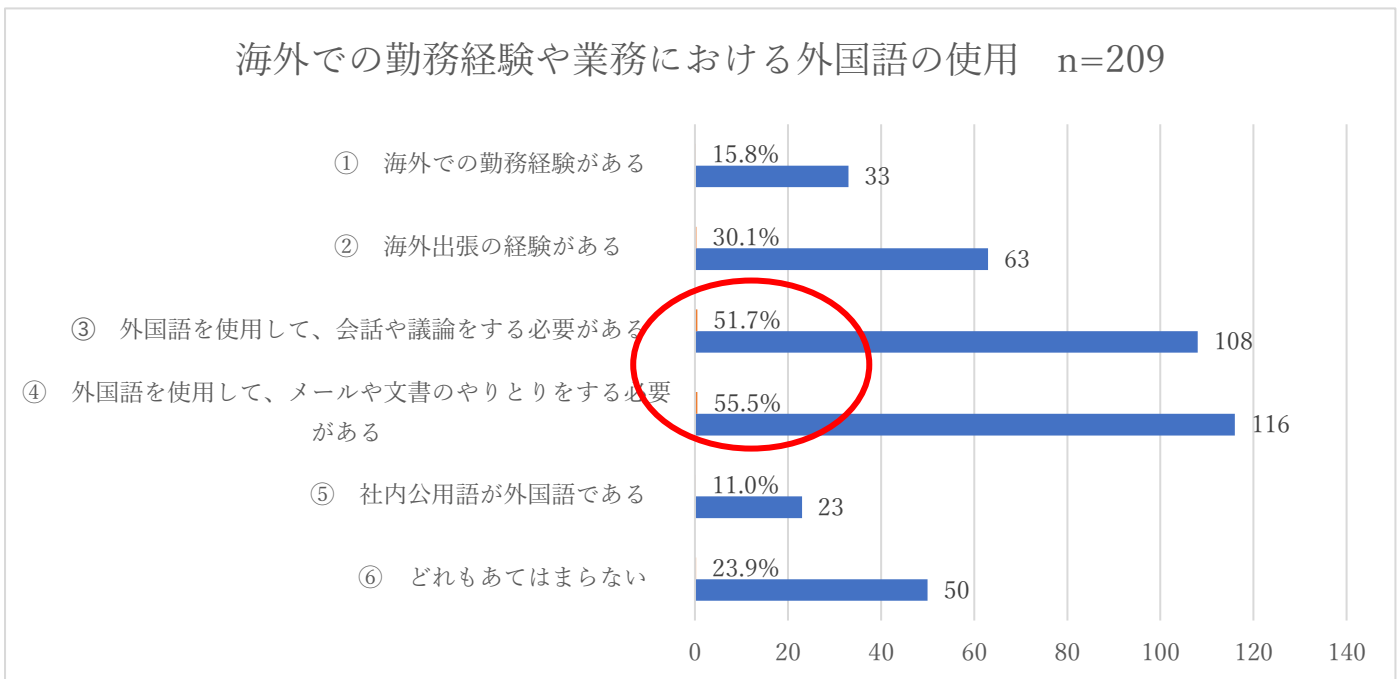
→約 9 割が満足（とても満足 + 満足）

n=209 (複数回答可)

海外での勤務経験や業務における外国語の使用についてうかがいます。



- ① 海外での勤務経験がある 33 件
- ② 海外出張の経験がある 63 件
- ③ 外国語を使用して、会話や議論をする必要がある 108 件
- ④ 外国語を使用して、メールや文書のやりとりをする必要がある 116 件
- ⑤ 社内公用語が外国語である 23 件
- ⑥ どれもあてはまらない 50 件



→卒業後も半数以上の方が外国語を使用している

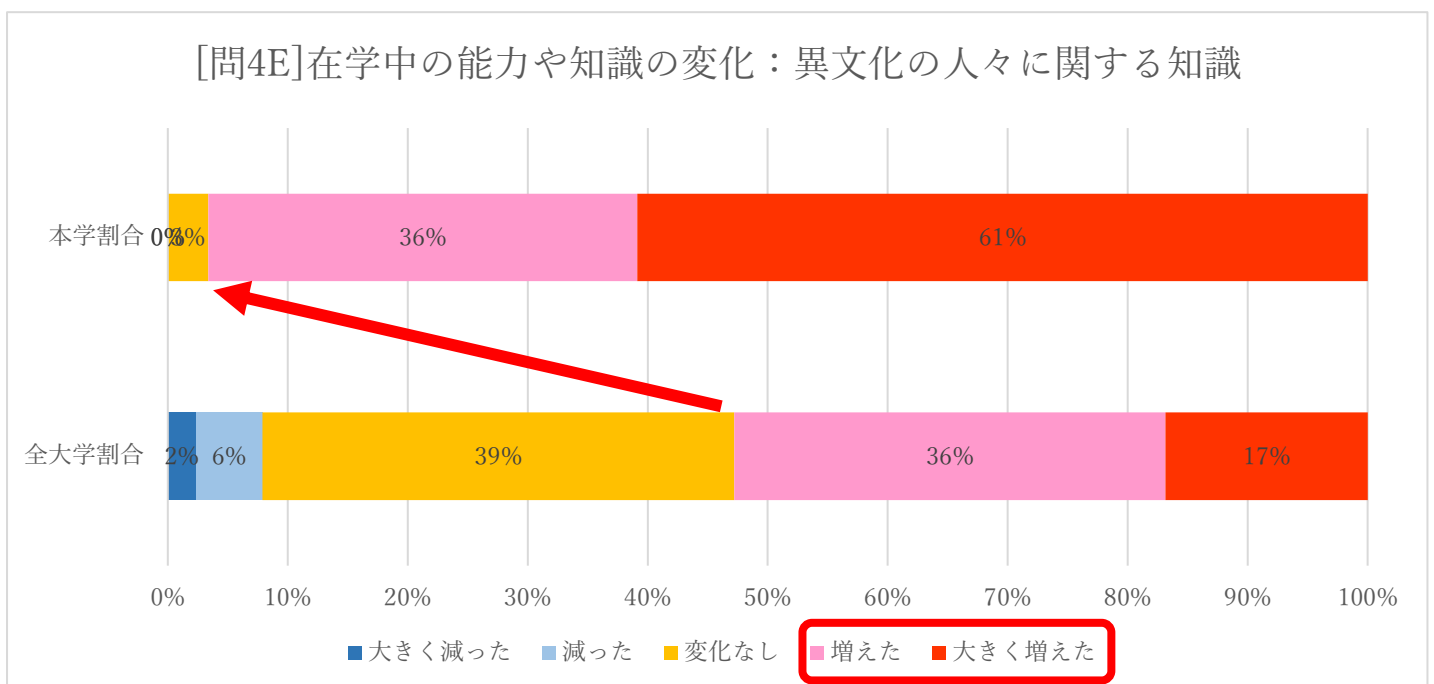
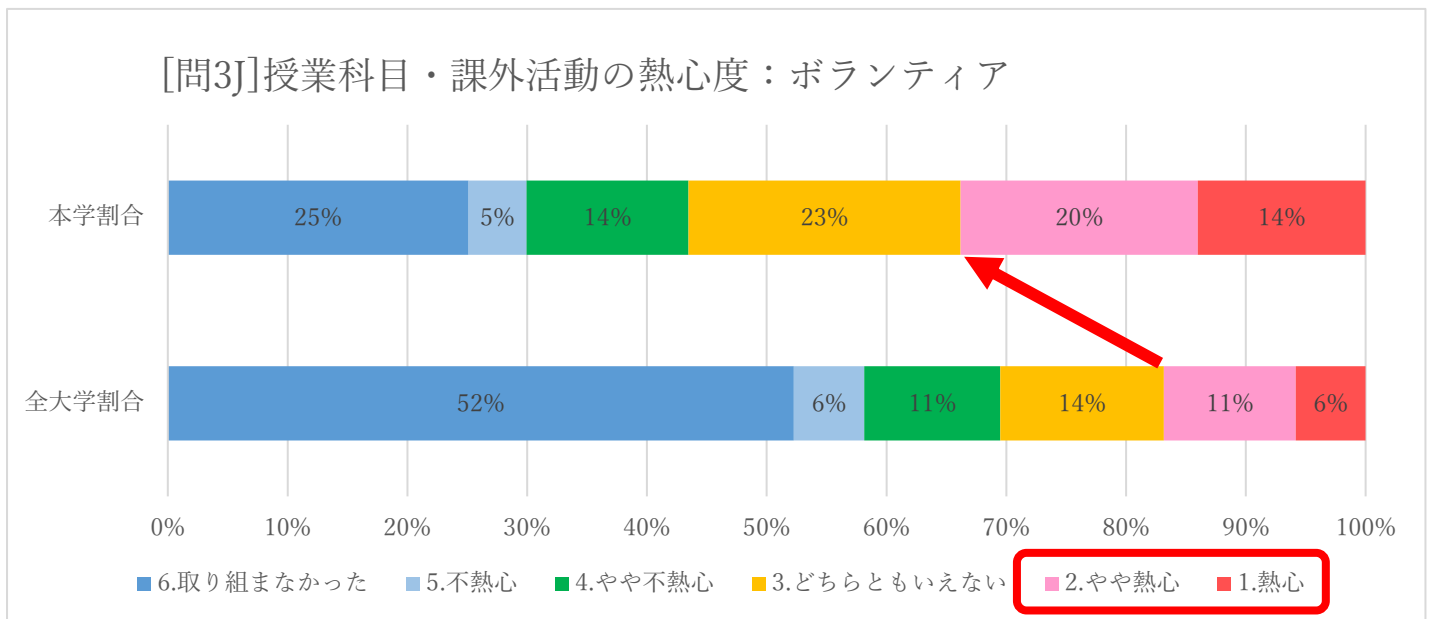
卒業生調査 2020 本学と全大学の比較（抜粋）

登録参加大学:18 調査データ:4,675 件（2020 年度） 2,657 件（2019 年度）

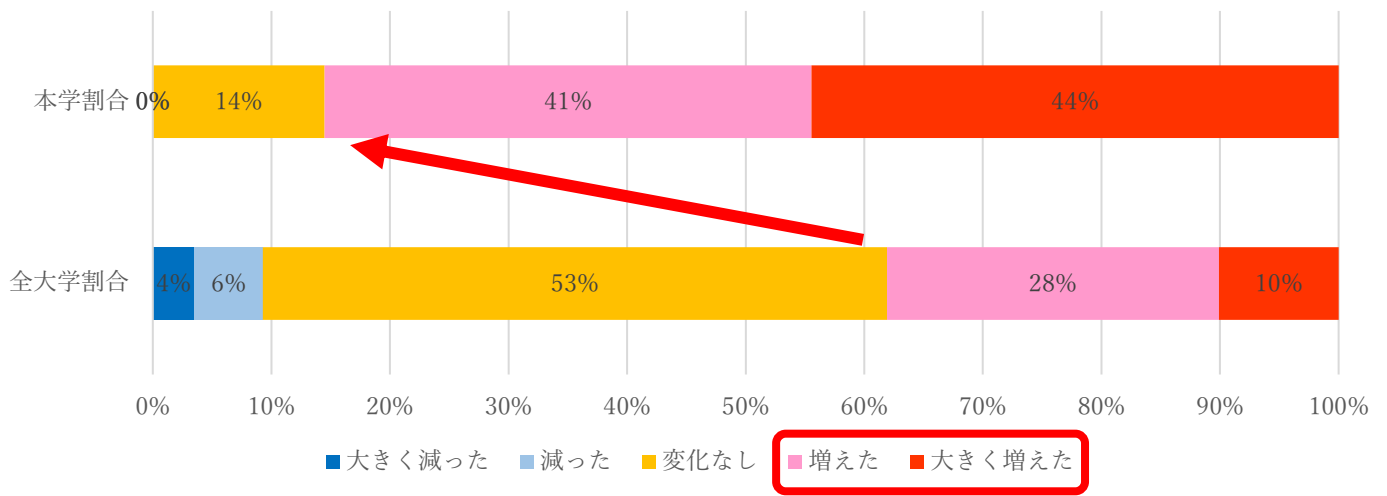
本学調査データ 207 件（2020 年度のみ）

本学回答者に占める割合及び全大学回答者に占める割合は、小数点以下を四捨五入しているため、必ずしも合計が 100%とはならない。

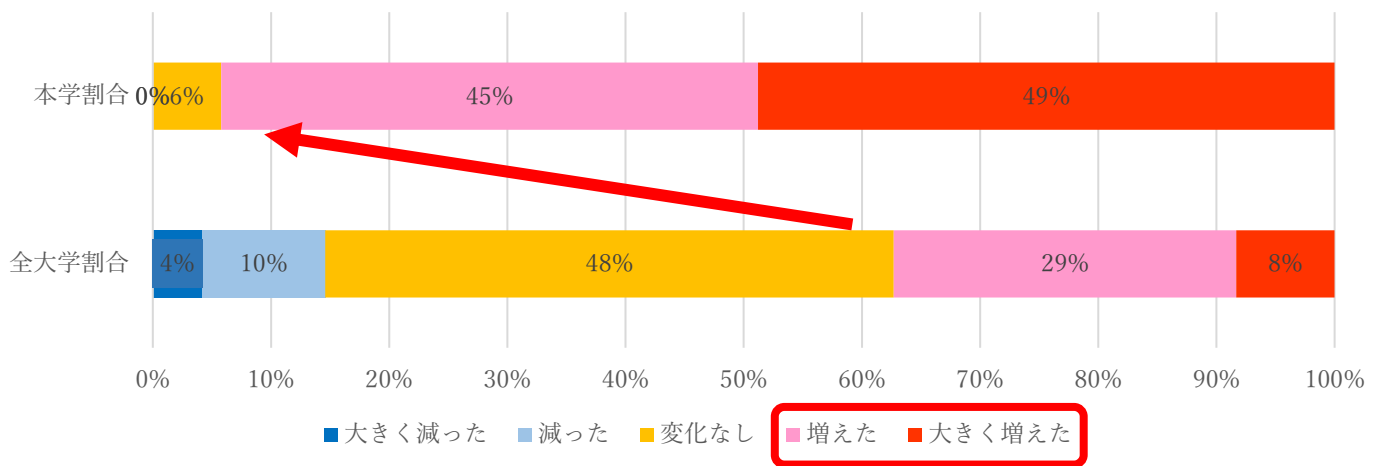
全大学のデータは、大学 IR コンソーシアム加盟大学で卒業生調査登録に参加した大学のデータによる（大学 IR コンソーシアムが 2021 年 6 月 28 日に加盟大学に対して公表）。どの大学が参加したかは非公表であり、規模・学系なども様々で標本数が 4,675 件であることに十分に留意は必要であるものの、本学卒業生の傾向を推測するうえでは、十分な手がかりを与えてくれるものと思われるため、全大学と異なる特徴をもつ設問を抜粋した。



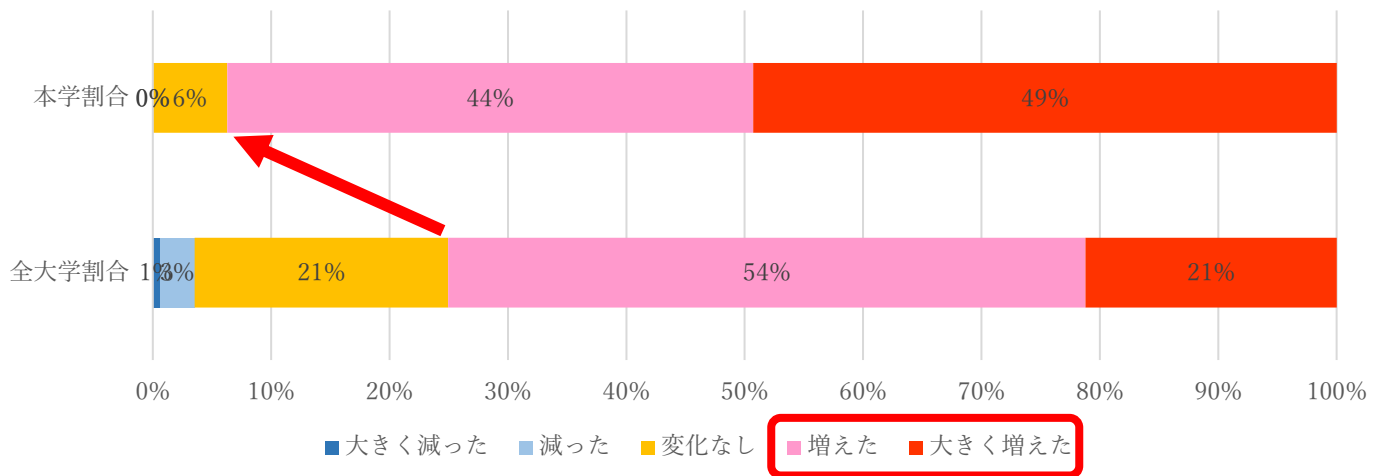
[問4I] 在学中の能力や知識の変化：異文化の人々と協力する能力



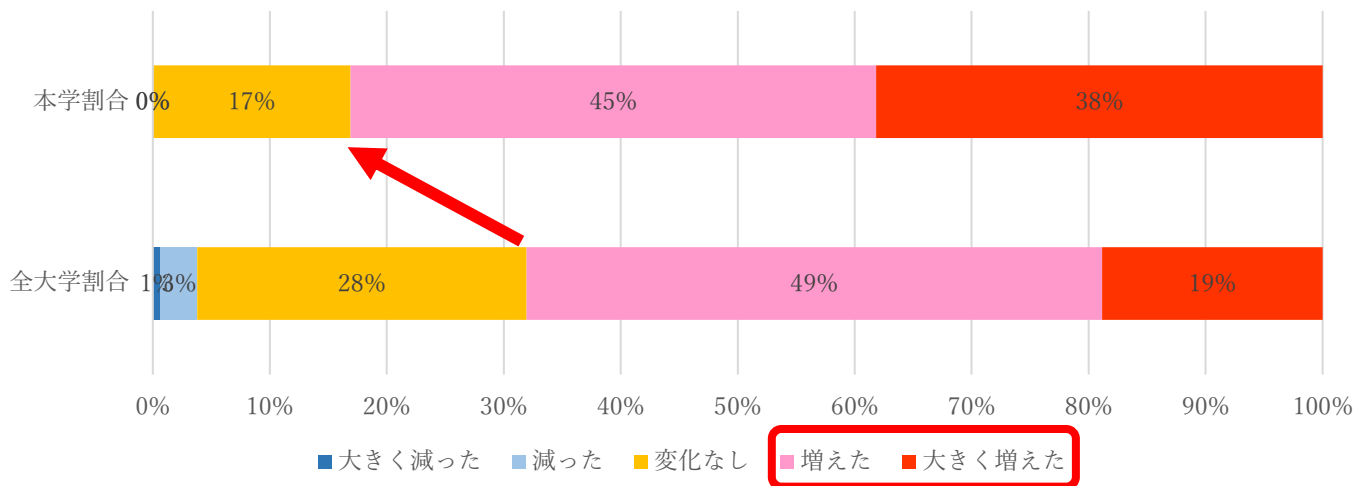
[問4M] 在学中の能力や知識の変化：外国語の運用能力



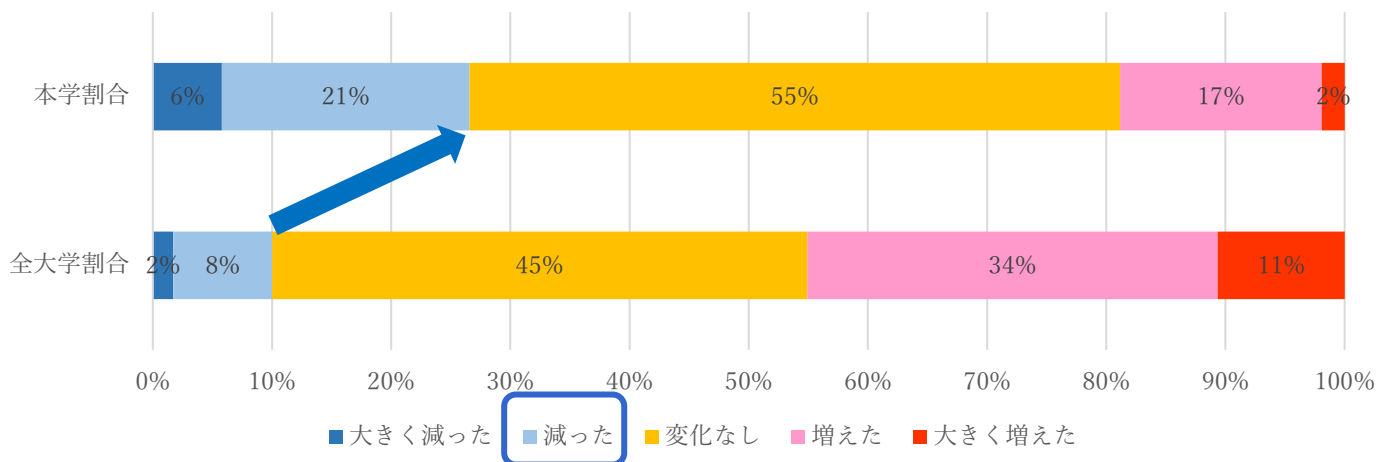
[問4N] 在学中の能力や知識の変化：コミュニケーションの能力



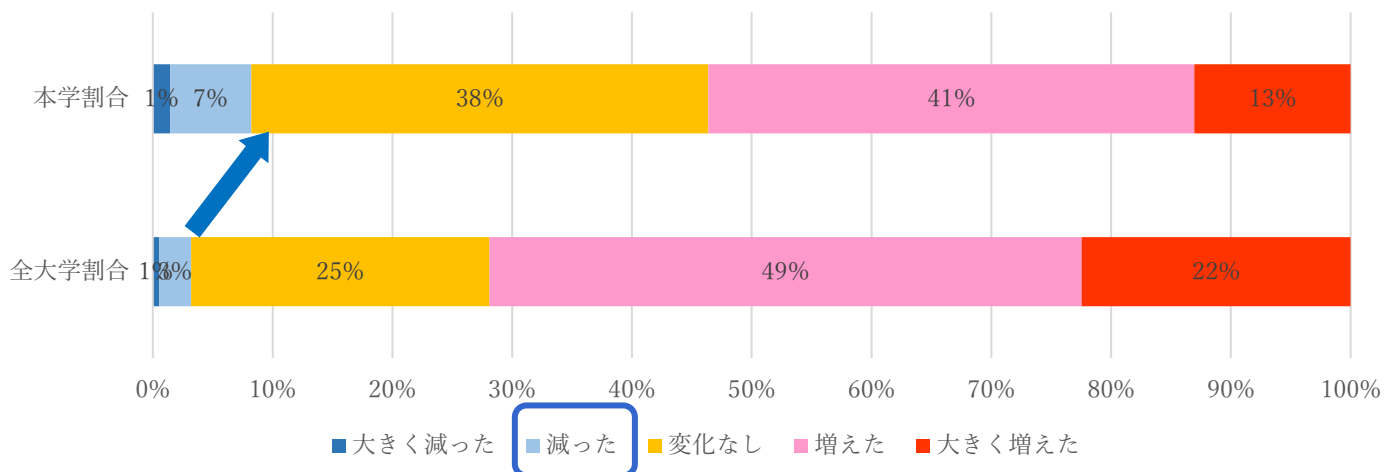
[問4O]在学中の能力や知識の変化：プレゼンテーションの能力



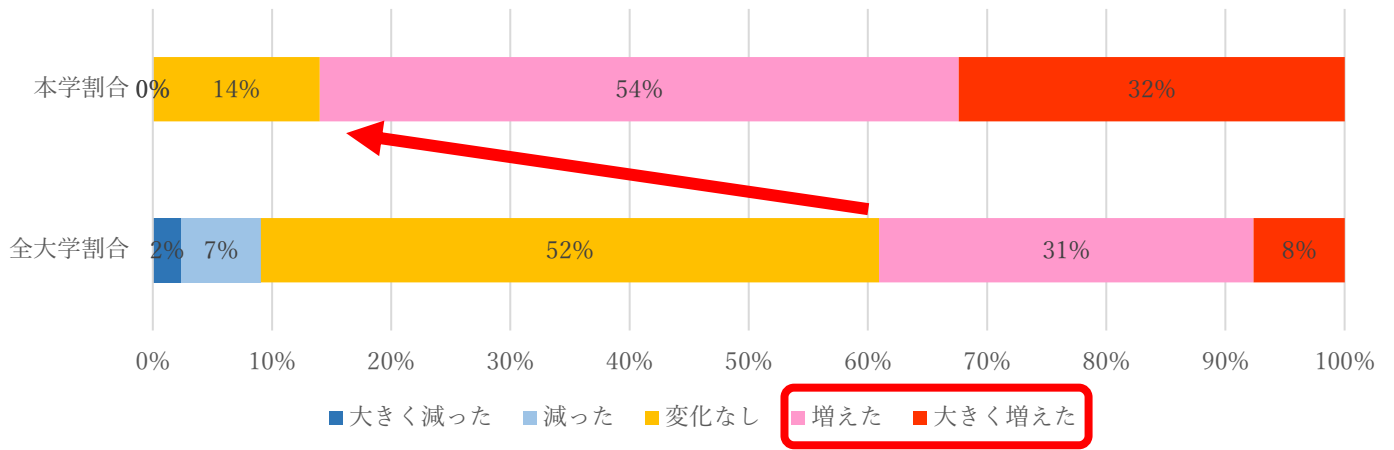
[問4P]在学中の能力や知識の変化：数理的な能力



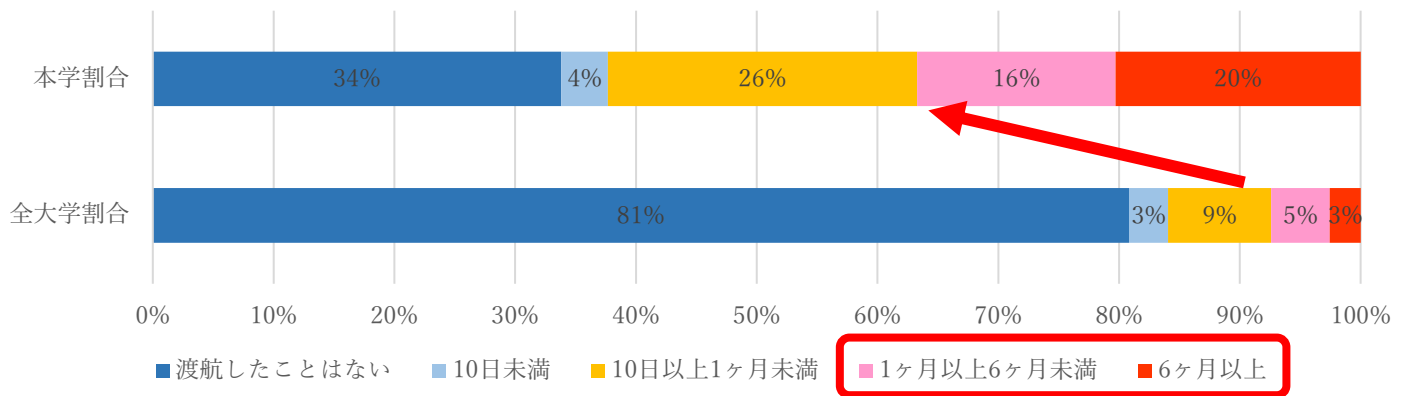
[問4Q]在学中の能力や知識の変化：コンピュータの操作能力



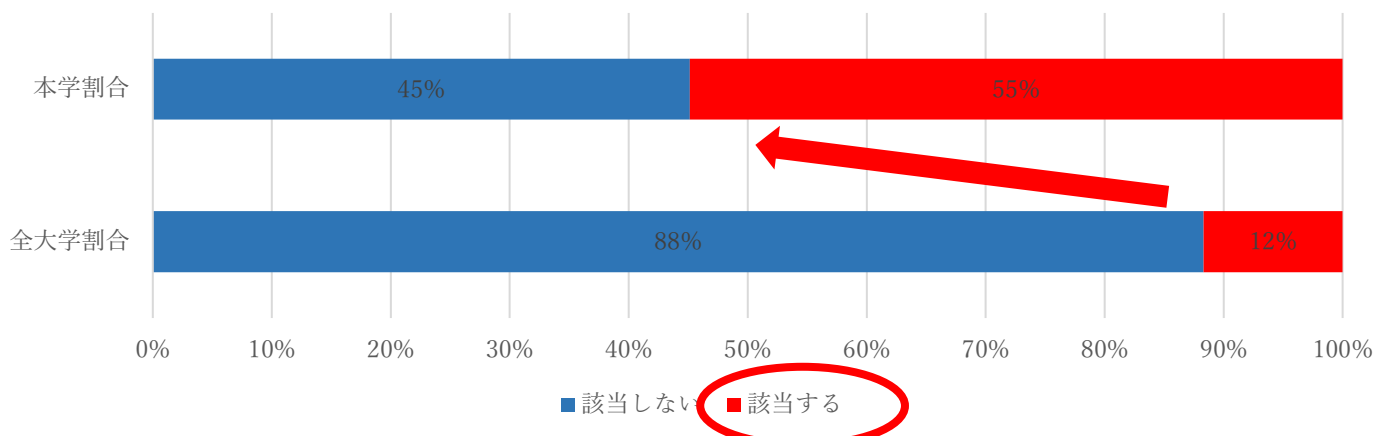
[問4S]在学中の能力や知識の変化：グローバルな問題の理解



[問5]あなたは大学時代に留学をしましたか。最も長期の経験に一つだけ○をつけてください。



[問13-3]海外勤務経験、業務上の外国語の使用：外国語を使用して、会話や議論をする必要がある（あった）



大学情報・機関調査研究会（MJIR）発表要旨

2020年11月14日、15日に開催された第9回大学情報・機関調査研究会（MJIR）研究集会において、本学は「学生アンケート調査・分析基盤の構築― Google Form、Excel、Tableau の活用 ―」を発表しました。その要旨をここに掲載いたします。

大学情報・機関調査研究会 MJIR (Meeting on Japanese Institutional Research) とは

日本の高等教育機関および研究機関の自律的運営と、その発展に寄与する機関調査 (Institutional Research) を推進・支援する研究会。2012年より活動を開始。IRの事例紹介や研究発表を通じて、日本におけるIRの推進に寄与するとともに、経営学や統計学、情報科学など、関連する分野の研究者や実務家および教育者の人的交流の促進とネットワーク形成を図っている。

学生アンケート調査・分析基盤の構築 — Google Form、Excel、Tableau の活用 —

寺澤岳生(神田外語大学)

1. 本発表の目的と課題

本発表では、Web アンケート調査の実施、データ構造の作成、可視化までフルデジタルな実践的手法について報告する。

用紙によるアンケート調査は、Web 調査に比べ回収率が高いとされてきたため、今までも各大学では多く実施されてきた。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)以降は、大学ではオンライン講義が広く活用されてはじめているが、それに伴い、Web を利用したアンケート調査を実施する大学も増えてきている。

本学では、毎年、学生の学習行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を調査する学習プロセスの間接アセスメントとして、毎年、全学部性を対象とした Web 学生アンケート調査を実施してきたが、課題として、Web 調査において、何点かオンラインならではの気をつけている点があったので、今回はその内容をまとめ発表することで情報共有をしたいと考えている。また、Web アンケート調査後のデータ蓄積の手法の一例や、可視化時に便利なツールやスクリプトについても報告したい。

2. 方法

本発表では、毎年、9月から10月末にかけて、全学部生を対象として実施している Web 学生アンケート調査を題材とした。

具体的には、Google フォームを用い Web アンケートの作成実施、Google スプレッドシートでのデータ収集保管、一般的に広く使われている Excel を活用したデータ構造の検討と蓄積、Tableau を用いた視覚化 (関数やスクリプト等)についての実践報告をする。

(今回の事例では、高額な費用は掛けておらず、大学や教育機関であれば、無料または安価で使うことができる IT ツールで実践した内容である。)

- ・準備:Google フォーム、スプレッドシート、Excel
- ・周知:Word、PDF
- ・実施:Google フォーム、スプレッドシート
- ・集計:Google スプレッドシート
- ・保管:Excel(簡易データ構造(簡易 DB))
- ・可視化:Tableau(100%横棒グラフ、母数表示スクリプトや区分別母数関数)

在学生アンケート調査は、準備から可視化まで、主に 6 つのフェーズがある。準備では、調査計画、コード表、設問、回答画面、集計画面を検討している。周知では、チラシ製作、全学生への E メールでの連絡、学生ポータルへの掲示、教員から授業での案内を行っている。Web 調査の実施では、学生が実際に Google フォームにスマートフォンや PC から回答し、スプレッドシートに時系列でリスト型データとして記録されていく。集計では、回答締め切り後に無効回答を除く形で集計している。保管は、経年で比較するためのデータ構造や DBID を検討設計し、Excel で簡易データベースを構築し集計データを蓄積している。可視化では、Tableau 社のソフトウェアを使い経年推移や各種属性ごとの違いを比較できる 100%横棒グラフを作成している。Web 学生アンケート調査の結果は、毎年、IR 年次報告書を作成し学内外に情報の公表を行っている。

3. 実践報告

本学では、各フェーズの内容やステップの業務手順等をできる限り文書化し、部門内で情報共有している。

3.1 準備

準備では、下記のステップがあり、それぞれで気をつけている内容の概要を説明する。

・計画検討

Word を使い骨子を作成し、調査目的、対象、期間、手法などを文書化している。

・コード表

設問項目やラベルコード等を一覧表にまとめている(大学 IR コンソーシアムに準拠)

設問内容が異なるため 1 年生、上級生(2~4 年生)用の 2 つの画面を作成している。

集計を容易にするために選択肢のコード(値ラベル)の文字列は揃える。

前年度からの変更点はセルの色を変えるなど作業時の誤りの防止に努めている。

・設問作成

Google フォームの Edit 機能で設問を作成。学生の学籍番号の記入ミスによる無効回

答をなくすため、Google フォーム上で、メールアドレスの自動収集(この機能を使うことで学籍番号を自動で収集することが可能)、信頼できる組織のユーザーに限定の機能を使用している。そして、大学 IR コンソーシアムの設問事項は、必須設問が大半を占めるので、Google フォームの各設問の回答必須の設定を ON にすることを忘れていないか何度も確認している(用紙では各学生がマークシートを塗り忘れるなどあり、回答の記入漏れを防ぐ制御が難しいが Web 調査ではこれが可能となっている)。

・回答画面

Google フォームの View-Form 機能を使って、Excel で作成したコード表と、実際のスマートフォンや PC の画面が違っていないか何度も付け合わせの確認をしている。

学生に周知する URL は、学生がスマートフォンからもアクセスがし易くなるように、bitly(ビットリー)サイトで短縮 URL を生成し、また、Chrome ブラウザの拡張機能の QR Trans というソフトを使い QR コード化している。

・集計画面

実施前には、動作テストを行い回答が正常に Google スプレッドシートに集計されているかを確認している。また、アンケート実施期間中に途中で Google フォームの設問を変更してしまうとスプレッドシート上に新たな列が生成されてしまい、列の順序が乱れてしまう。(もし、そうなった場合には、本学では、もう一度スプレッドシートを再作成しリンクを張り直して、できる限りの再整列を心がけている)

3.2 周知

・Web 調査は用紙のアンケート調査に比べると回収率が低いとされているが、本学では、チラシを作成し教員から授業のときに配布してもらう試みや、全学生に E メールで案内する方法を実践しており、可能な限りの回答率の向上を目指している。また、回答者の中から抽選でギフト券(Amazon ギフト券 E メールタイプ)が当たるという取り組みも実施している。以下の図より、2019 年度は、前述の取り組み等を行い、学部生 4170 名中、1260 名からの回答があり、回収率を 30.2%まで上げることができた。

学生アンケート回答数の推移

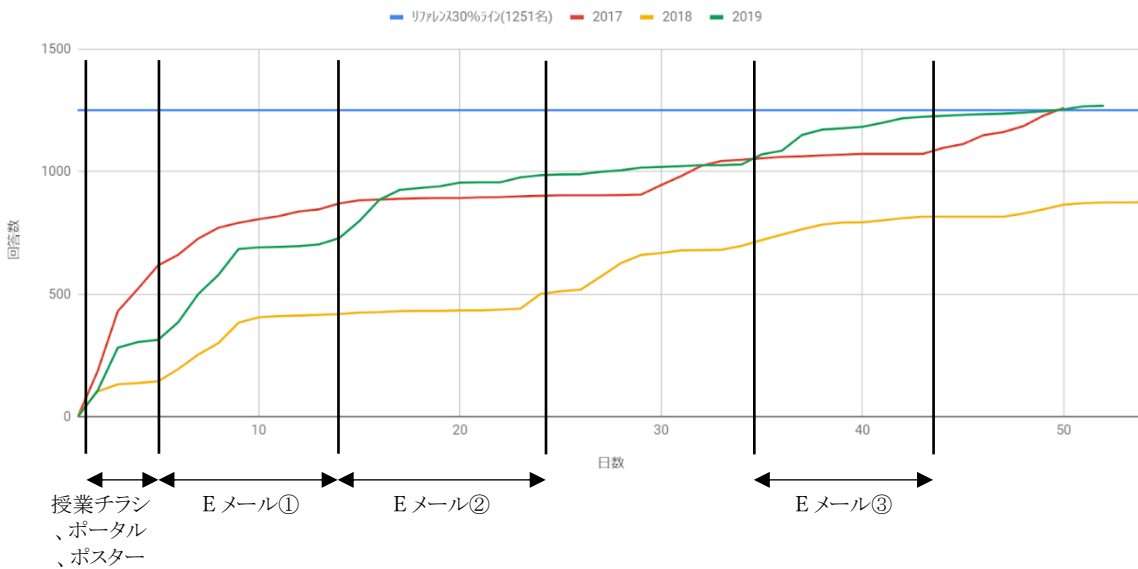


図 1.学生アンケート回答数の推移

図 2.制作したチラシ

	ほぼ毎日	週に2～3回程度	週に1回程度	2週間に1回程度	月に1回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	ほとんど利用しない
SALC	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
MULC	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
図書館	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
メディアプラザ	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

図 3.アンケート回答画面

3.3 実施

- ・学生による Google フォームへの回答が開始された後は、定期的に、スプレッドシートを確認している。メールアドレスの自動収集(学籍番号)、必須回答の設定に漏れがないか(空白のセルの有無から判断)をチェックしている。学生は学籍番号@大学ドメイン.ac.jp 以外のプライベートな Gmail アカウントからは回答はできない設定のため、学生からアクセスできない等の問い合わせがあった場合には、メールアカウントの切り替え変更の説明をして対応している。
- ・学生は、必須の設問(*印の表示)を回答しないと次のページに遷移できない。また、回答を終了する前に、学生自身で、回答のコピーを自分宛に送信するか or しないかを選べる設定にしている。(用紙の場合は、回答後に用紙を提出してしまうが、Web 調査では自分の回答を Eメールに送信できるので保存することが可能である)。

3.4 集計

- ・Google スプレッドシートから Excel にダウンロードして集計作業をしている(スプレッドシートは大切な元データであるので編集変更はしていない)。Excel にダウンロードした直後に、1 年生の回答結果ファイルの先頭から、上級生回答結果ファイルの最後にかけて、通しのレコード番号(管理番号)を付番している。(2019 年度では、1 年生は 1 から 433 番。上級生は 434 から 1260 番であった)
- ・Excel の Power Query 機能で、アンケートの回答データと教務システムからの学生基本情報データを結合している。
 - －学生アンケート＝学習行動・時間、自己評価(間接アセスメント)
 - －成績情報＝取得単位数、GPA、英語スコア等(直接アセスメント)
 - －学生基本情報＝学部学科、出身高校、入試区分等(学生の属性情報)
- ・Excel では、回答選択肢の文字列(例:ときどきあった等)をコード(4 段階等の整数値)に変更するときは、Excel の検索置換は使わずに、コード変換表を作成し、Vlookup(Xlookup) 関数を使って、変換している。(例:ひんぱんにあった⇒変換表(Vlookup 関数)を経由し⇒整数値の 5 に変換)

3.5 保管

- ・Excel で簡易データベース(簡易 DB)を作成し、年度ごとの回答結果のデータを積み上げている。毎年データを積み上げることで、経年の推移の比較が可能となる。例えば、新型コロナウイルス感染症が広がる前後のデータの経年比較ができる。
アンケートデータ以外のデータとの連結(例えば、学生基本情報の入試区分等)をし易くするため、予めデータ構造やデータベース項目名(DBID)を検討した。
簡易的な DB ではあるが、DB 仕様書を作成し文書化した。データ構造が書かれた仕様書があると、Tableau などで多角的に分析する際にも、データ活用し易いと考えている。
- ・データ構造は、ヘッダー情報、学生基本情報(大学 IR コンソーシアムに準拠、主に教務システムから入手)、Web 学生アンケート結果データ、その他の情報(本学が独自に追加した学科名、入試区分等)と決めた。
- ・データベース項目名は、2 や 4 の倍数で長くならないように 12 バイト(桁)と決めた。
分類、区切り文字、種別、般質、設問番号、複版、区切り文字と検討した。

IRデータDB仕様書		ファイル名	ファイル概要	版数	作成日	作成者	
		学生アンケート	学生アンケートの情報を管理する	初版	2019/11/22	IR寺澤	1/1
		xxx.xls		改定3版	2020/08/21		

NO.	KEY	表 題	必	項目名	データ型	全角許容	バイト	ドメイン	備考
1		アンケート分類	○	cu_stGc0100_	文字列 (VARCHAR2)		2	アンケート分類コード	アンケートの分類コードをあらわす。 ad(admission入学時の略)、cu(current student在校生の略)、da(daigakuin大学院)、gr(graduate卒業時の略)、re(reunion同窓会の略)
2		レコードNo	○	cu_stGc0200_	数値 (NUMBER)		16	レコードNoコード	アンケートのレコード数。DBではなくExcelで管理しているので必要。
3	○	主キー-01	○	cu_stGc0300_	文字列 (VARCHAR2)		30	主キー-01	アンケート調査年度+暗号化された学籍番号 (英数記号混じり)
4	○	主キー-02	○	cu_stGc0400_	文字列 (VARCHAR2)		11	主キー-02	アンケート調査年度+学籍番号 (整数値のみ、暗号化されていない学籍番号)

図 4. データベース仕様書

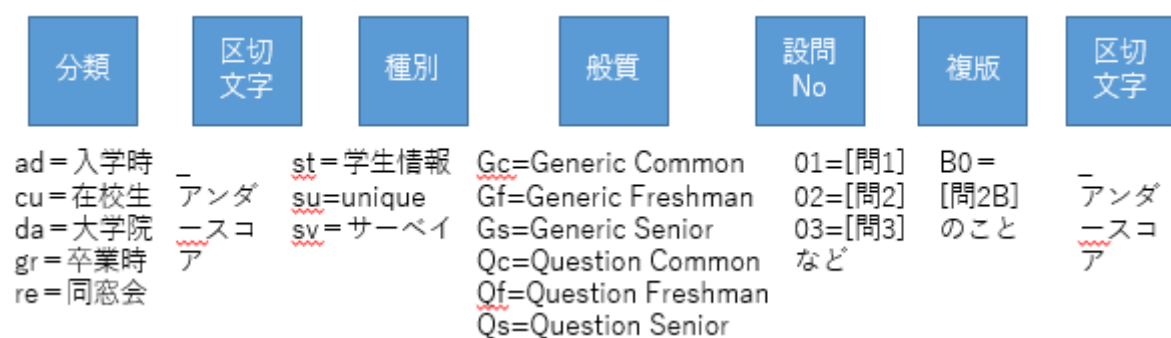


図 5. データベース項目名 (DBID) 検討

3.6 可視化

- ・可視化をする際には、単年度の集計結果を素早く可視化できる Google フォームの機能である View-Analytics と、年度ごとの経年推移を比較できる Tableau の 2 つのツールを活用している。
- ・Google フォーム View-Analytics は、Google フォームの Edit 画面にアクセスする URL の末尾の文字列を /viewanalytics に書き換えるだけで利用することができる。通常の間までは URL の文字数が長く不便であるので、前述の短縮 URL の生成や QR コードを作成しアクセスし易くなるように努めている。View-Analytics で可視化した単年度のアンケート結果は IR 年次報告書に記載し学内外に公表している。
- ・Tableau では、Excel で作成した簡易データベースから過去のアンケート結果のデータも含めて一括して読み込んでグラフ化している。毎年、アンケート回答者数が異なるため、100%積み上げ横棒グラフを作成し、経年データの比較をしている。また、アンケート回答は、1 年生用、上級生 (2~4 年生) 用の 2 つの画面を用意したが、経年比較を可視化するグラフでは、設問ごとに、1 年生、上級生が 1 画面に表示するようにダッシュボードを検討作成した。年度ごとに、回答者数が異なることから、Tableau の 100%積み上げ横棒グラフ用のスクリプトを作成し、画面上に母数を表示している。そして、年度、1 年生、上級生以外の視点での分析をする際に、その各属性の母数を表示する関数も使用している。

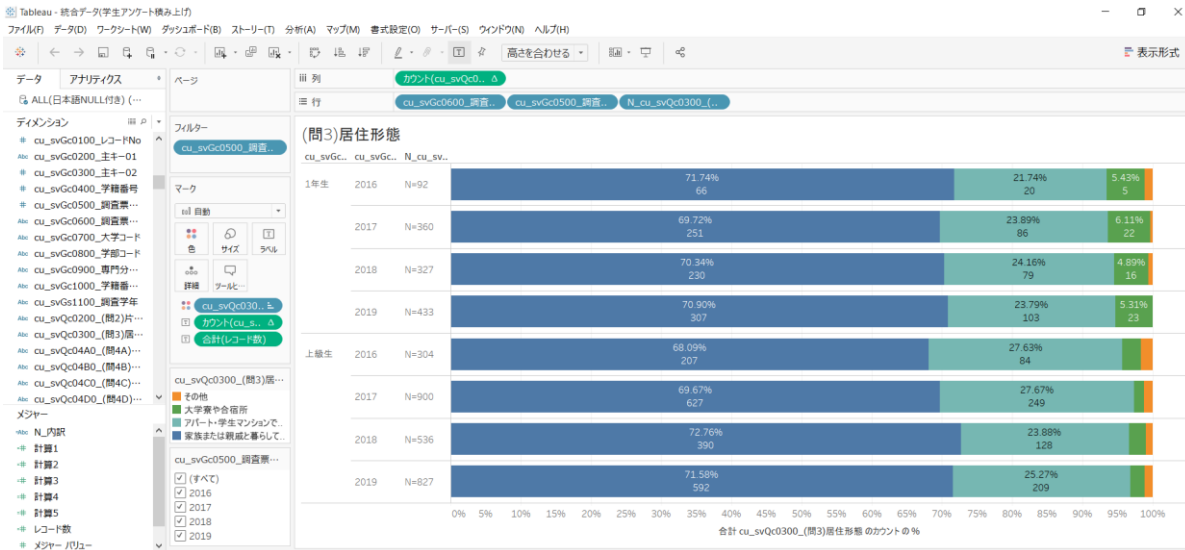


図 6. 100%積み上げ横棒グラフによる可視化 (Tableau)

"N="+STR({ FIXED
[cu_stGc0700_調査票種別],[cu_stGc0600_調査票年度]:
COUNT(
[cu_svQc0300_(問3)居住形態]
}))

"N="+
STR(WINDOW_SUM(SUM([レコード数])))

図 7.例)経年で母数 N を表示するスクリプト

図 8.各属性の母数 N を表示する関数

4. おわりに

今回の発表では、Web による在学生アンケート調査の実施から簡易的な分析基盤の構築まで、準備、周知、実施、集計、保管、視覚化の一連の流れや、そのフェーズごとに気をつけている点を実践報告した。Excel で簡易的なデータ構造 (DB) を検討作成し、Tableau で学生アンケートの結果を読み込み、100%積み上げ横棒グラフで可視化し経年比較しているが、その際に使用している母数表示スクリプトや関数等についても情報共有した。

【参考文献】

- [1] R. D. Howard 編, 大学評価・学位授与機構 IR 研究会訳「IR 実践ハンドブック」玉川大学出版部, 2012.
- [2] 森 雅生, 大石 哲也 (2019 年), 大学 IR 情報の流通における質保証について, 第 8 回 大学情報・機関調査研究集会 MJIR2019.
- [3] 松田 岳士, 森 雅生, 大石 哲也, 相生 芳晴, 姉川 恭子, 大学 IR スタンダード指標, 関東地区 IR 研究会, 玉川大学出版部, 2017.
- [4] 高瀬 雄一郎, 玉造 美恵, 石井 雅章, 吉野 知義, 相良 亜希, 寺澤 岳生, 卒業時アンケートの立ち上げと、学生行事と連動した回答率向上施策についての事例報告, 第 8 回 大学情報・機関調査研究集会 MJIR2019.

学長室 IR 推進チーム主な活動記録 (2020 年度)

4 月 前年度卒業時アンケート結果集計・分析作業	10 月 THE 世界大学ランキングデータ作成
5 月 大学 IR コンソーシアム IRiS システム 前年 2019 年度「学生情報データ」(5 月) 登録作業	11 月 在学生アンケート 2020 回答者プレゼント抽選 MJIR 発表 (寺澤)
6 月 大学 IR コンソーシアム 定時正会員総会出席 前年度卒業生アンケート結果集計・分析作業	12 月 卒業生アンケート調査 2020 実施
7 月 在学生アンケート準備作業	1 月 在学生アンケート 2020 教職員対象結果報告会 神田外語大学 IR 年次報告書 2019/2020 速報版刊行
8 月 大学評価・IR 担当者集会参加	2 月 大学 IR コンソーシアム IRiS システム 2020 年度「共通調査データ」(2 月) 登録作業
9 月 在学生アンケート調査 2020 実施 (9/11~11/4) THE 世界大学ランキング学生アンケート (9/1~11/13) 私立大学等改革総合支援事業、教育の質に係る客観 的指標 (文科省) IR 関係データ作業	3 月 卒業時アンケート調査 2020 実施 次年度新入生アンケート A&C 部と合同実施

<学長室 IR 推進チーム (2020 年 4 月 1 日より)>

シニアマネージャー・専任 村田 裕司 (兼務)

チーフ・専任 寺澤 岳生 (専従)

発行：2021 年 7 月 神田外語大学 学長室 IR 推進チーム

執筆(編集)・装丁(デザイン)：寺澤 岳生・村田 裕司